

# 開催案内

## マンスリーセミナー

477 回	2/21 (火)	オールフォトニクスネットワークに向けた 新たな光アクセス伝送・システム技術	日本電信電話株式会社 NTTアクセスサービスシステム研究所 光アクセス基盤プロジェクト 主席研究員・プロジェクトマネージャ 吉田 智暁 氏
<p>(内容) 社会・産業のデジタル化やリモートワールドの進展に伴い、ネットワークを流れるデータ量は増加し、その種類やニーズが増え続けている。特に従来主流であったベストエフォート型とは異なるユースケースが登場し、通信ネットワークに対して拠点や遅延に新しいニーズが生まれつつある。これらのニーズに対応すべく NTT は 2019 年に IOWN 構想を発表するとともに、光ファイバが有する大容量、長距離、多重伝送能力をさらに活かし、多種多様な光アクセスサービスを提供するオールフォトニクスネットワーク(APN)の研究を開始している。本講演では、これまでの APN の光アクセスに着目したアクティビティを紹介するとともに、APN 実現に向けた光アクセス伝送・システム技術の最新動向について述べる。</p>			
478 回	3/28 (火)	マルチモード光ファイバを用いた 車載高速光通信とRadio over Fiber	矢崎総業株式会社 技術研究所 高周波伝送技術研究部 光通信技術研究チーム チームリーダー 相葉 孝充 氏
<p>(内容) マルチモード光ファイバ(MMF)は大きなコア径を有することから光接続に高精度な調心作業を伴わず、低コスト化に向く中短距離光通信システムの伝送媒体として用いられており、車載用光通信システムとしても欧州を中心に採用されてきた。近年は ADAS の機能向上、移動通信システムを活用したコネクティッドサービスの普及により、車載ネットワークの情報量も増加しており、それらに対してマルチギガビット光伝送に向けた標準化が進められている。また 5G 以降の移動通信システムではデータレートの大容量化やカバレッジエリア構築技術として周波数利用効率の高い Analog Radio over Fiber(A-RoF)の活用も検討されている。本講演では MMF を用いた車載高速光通信の変遷と動向、5G/Beyond5G に向けた RoF について紹介する。</p>			
479 回	4/25 (火)	ペロブスカイト太陽電池： 実用化に向けた開発研究の最前線	京都大学 化学研究所 複合基盤化学研究系 教授 (株)エネコートテクノロジーズ 取締役 若宮 淳志 氏
<p>(内容) ABX<sub>3</sub> 型のペロブスカイト半導体を用いた太陽電池が、次世代の太陽電池として注目を集めている。本太陽電池は、材料の溶液の塗布成膜など低温プロセスで作製可能であり、フィルム基板を用いることで、軽量・薄型・フレキシブルな太陽電池を作製することができる。我々はこれまでに、材料化学の視点から、ペロブスカイト太陽電池の高性能化に取り組んできた。2018 年には、得られた成果をもとに、大学発ベンチャー(株)エネコートテクノロジーズを設立し、本太陽電池の実用化に向けて開発研究に取り組んでいる。本発表では、我々の研究成果を中心に、ペロブスカイト太陽電池の原理や用いる材料の開発研究について紹介する。</p>			

最新情報は光産業技術振興協会のマンスリーセミナーのページをご覧ください。

会場：オンライン開催 (Webex)

時間：午後 3 時 30 分～5 時 30 分

定員：90 名 (申込先着順)

参加料：協会賛助会員：1,500 円 (1 回につき・消費税込)

一般参加：3,000 円 (1 回につき・消費税込)

大学・公的機関：無料 (学生・院生含む)

支払方法：銀行振込

申込方法：マンスリーセミナーHP をご確認の上、  
メールにてお申し込みください。

<http://www.oitda.or.jp/main/monthly-j.html>

問合せ先：光産業技術振興協会 開発部 瀬戸山

TEL：(03)5225-6431 E-mail：[mly@oitda.or.jp](mailto:mly@oitda.or.jp)